

(様式2)

ふるさとキャリア教育モデル事業実施報告書

1 事業地域の概要



教育委員会名	八頭町教育委員会					
教育委員会 担当者及び連絡先	所属・役職	八頭町教育委員会・参事兼指導主事				
	氏名	岩城 知子				
	電話	(0858-84-1231)				
対象となる学校名	八頭町立郡家東小学校・郡家西小学校・船岡小学校・八東小学校、 八頭町立八頭中学校、鳥取県立八頭高等学校					
実務担当者名	郡家東小学校	教諭	青木典子	郡家西小学校	教諭	内田雅子
	船岡小学校	教諭	露木克久	八東小学校	教諭	谷口三千代
	八頭中学校	教諭	田中 聡	八頭高等学校	教諭	中林直樹

2 目的

八頭町内の小中高で連携し、キャリア・パスポートを活用して効果的に学年間や学校間をつなぎ、ふるさとキャリア教育を充実させることで、子どもたちが自分らしい生き方を実現し、自己実現に向けて主体的に課題解決に向かう意欲や態度を育てていきたい。そして鳥取県に誇りと愛着を持ち、将来にわたりふるさとを思い鳥取を支えていく力を八頭町で学ぶ子どもたちに付けていく。

3 内容

(1) 各学校の実態

町内小学校 (4校)	<p>学校ごとの特色を生かし、特別活動・特別の教科 道徳・総合的な学習の時間・教科学習等と関連づけたキャリア・パスポートの活用を年間計画に位置づけて実施した。保護者への啓発は学校便り・学級通信などで働きかけ、キャリア・パスポートへの記入もお願いしている。また、職員間で互いに声を掛け合って時期を逃さず取り組む、基礎的・汎用的能力の視点で学習を捉えるなど意識が高まってきた。</p>	 
---------------	--	--

<p>八頭中学校</p>	<p>特別活動、総合的な学習の時間、特別の教科 道徳と関連づけたキャリア・パスポート活用を年間計画に位置づけて実施しようとした。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で多くの行事が中止となり、予定通りに進めることができなかった。2年生は職場体験も八頭高ライフ体験もできなかったため、今後八頭高生に来校してもらい、高校進学に向けて知りたいことを共有するなどして、自分の進路選択に生かす学習を計画している。</p>	
<p>八頭高等学校</p>	<p>進路学習、教科学習、学校行事、部活動、地域活動等で基礎的・汎用的能力を育成するため、キャリア・パスポートを活用しようとしたが、十分活用しきれなかった面がある。職員の取組に温度差がある面も感じる。地域に根差した学習にするため、探究的な学習を鳥取大学や八頭町と連携し推進していく方向で検討している。</p>	

(2) 目標及び成果指標（取組指標）

- アンケートを実施し、年度当初と年度末の比較により肯定的意見が各項目で向上する。
- 各学校でキャリア・パスポートを計画的に実施する。

(3) 取組の内容

- 町内担当者連絡協議会（年3回）を実施し、各校の取組やその成果と課題を共有し連携を図りながら、各学校での年間計画に基づいてキャリア・パスポートを活用する。
- 町内小中高ふるさとキャリア教育合同研修会を実施し、授業実践を参考にしたりキャリア・パスポートの活用についての講演を聴いたりすることで研修を深める。
- 町内小中高の児童生徒と教員に、7月・2月にふるさとキャリア教育についてのアンケートを実施し、実態を把握、分析・評価し、次年度に生かす。
- 町内小中高12年間のキャリア・パスポートの構成表を作成し、町内で共通して縦のつながりを意識した取組ができるようにする。



(4) 事業の実績

時 期	事業（活動）内容
6月30日 (火)	第1回町内担当者連絡協議会 キャリア・パスポートの活用と小中高の連携について
7月上旬	(1回目) 町内小中高児童生徒・教員ふるさとキャリア教育アンケート実施
9月4日 (金)	第2回町内担当者連絡協議会 アンケート結果の分析と今後の方向性の確認
12月4日 (金)	<p>町内小中高合同研修会（船岡小学校にて実施）</p> <p>◆6年授業公開 地域教材「八頭町の道徳」の資料「星への情熱～本田實～」の学習を通して、町内の先人の生き方や知恵、地域を思う気持ちや志を学ぶ道徳学習の授業公開を行い、研修を行った。</p> <p>◆情報交換と指導助言及び講演会</p> <p>①情報交換 「特別の教科 道徳・各教科・特別活動等におけるふるさとキャリア教育の効果的な取組とキャリア・パスポートの活用について～つながり・ひろがり・かかわりを通して～」というテーマで、5～6人ごとの小グループでそれぞれの学校での取組について話し合った。グループ討議後、参加者全体でも情報を共有し、今後の取組の参考にした。</p> <p>②講演会 「ふるさとキャリア教育と道徳教育～ふるさとを一生の心の支えに～」 講師 武庫川女子大学 押谷 由夫 教授 児童が将来にわたり夢や希望をもち、ふるさとを大切にしつつ自分の人生を切り拓いていくことのできる考え方・生き方につなげる学びとなるよう、指導方法の改善や質的向上を図るための指導助言をいただいた。また、小中高で、児童生徒の思いを育てつなげていくことのできるキャリア・パスポートの効果的な活用についての示唆をいただいた。</p>  
2月上旬	(2回目) 町内小中高児童生徒・教員ふるさとキャリア教育アンケート実施
2月25日 (木)	第3回町内担当者連絡協議会 今年度の取組の成果と課題についての協議、アンケート結果の分析 来年度の方向性の検討

4 取組結果

(1) 成果

- ・町内担当者連絡協議会を開くことで、各学校の実施状況や好事例を共有できた。それにより、各校の取組を充実させることにつながった。
- ・アンケート結果から「ふるさと（八頭町・鳥取県）が好き」94.4% → 96.7%、「地域の良さや、それに関わる人の思いや生き方を知っている」77.8% → 81.8% と肯定的に回答した児童生徒が増加し、地域への愛着が高まってきている。
- ・各学校でキャリア・パスポートを計画的かつ確実に作成し、主任を中心として取組を推進しようという意識が高まった。
- ・小中高12年間の流れがわかるキャリア・パスポートの構成表を作成し、来年度の小中、中高の連携がより行いやすくなった。どのような学習を積み上げることが子どもたちのキャリア発達につながるかを考えることができた。
- ・7月と2月に実施した教員アンケートを比較すると、「ふるさと鳥取県（八頭町）に誇りと愛着を持ち、郷土を支える人材を育成」33.3% → 56%、「教科等の指導に当たって、地域社会の学習の題材として取り扱い」30% → 42%、「児童生徒に対して、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導」32.3% → 45%、「地域の自然、歴史、文化等から学ぶ体験活動及び探究的な学習の取組」25.6% → 48%と、すべての項目で数値が向上した。教員の意識が大きく変わり、各学校の特色を生かしながらふるさとキャリア教育の視点をもって計画的に取り組んだ成果と思われる。

(2) 課題

- ・7月と2月のアンケートの比較では、新型コロナウイルス感染症のため行事の多くが中止になったことが影響し、「地域の行事に参加」84.4% → 73.0% と前向きな姿勢が低下した。また、「自分の良さ、学級の良さに気づき、故郷の良さを伝えたり広げたりするための思考や行動化」の項目も71.6% → 69.0%と肯定的意見が低下した。この結果から、地域の人とつながる場を児童生徒が体験する機会がなくなり、思いや行動化につながりづらかった面があるのではないかと考えられる。来年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、どのような学習を行うことができるか、検討や工夫が必要である。また、学びを有意義な気づきにつなげるための教員の事前の声かけや気づきを価値づける声かけ、行動化につながる仕掛けなど、意図して計画することが必要である。
- ・教員アンケートと児童生徒アンケートの結果には温度差が感じられる。今後、児童生徒が気づくだけでなく、思いを伝えたり様々な形で発信したりしていくことができるような学習につなげたい。また、気づき、伝え、取り組んだことが、人のため地域のために役に立ったという実感がもてるよう、指導を工夫していくことが必要である。

(3) 次年度の取組

- ・引き継いだキャリア・パスポートの活用
小中連携や中高連携に生かされるように、いつどのように生かすかを校内で共有して、有効に学習につなげる実践を行う。
- ・縦と横のつながりの整理
小学校4校の特色を生かした取組を大事にしつつ、町内共通の取組を確認する。そのため、まず中学校の年間計画やキャリア・パスポートの構成を再度見直し、生徒の発達段階に応じた円滑なものになるよう、小中の学習を整理する。そして、小学校でも各校で取り組んでいることを整理して、横のつながりを見直して共通の実践を行う。
- ・地域での「思考と行動化」
アンケート結果から課題がみられたため、地域を意識した活動で児童生徒の学びが充実するよう検討し、実践をする。